

## 日光市公共施設適正化推進市民委員会会議録

件名	第9回日光市公共施設適正化推進市民委員会会議		
日時	令和3年3月26日 10:00～11:35	作成日	令和3年3月26日
場所	日光市役所 本庁舎2階 中会議室202	記録者	資産経営課 加藤
<b>出席者</b>			
<日光市> 安西財務部長 小林資産経営課長 星資産経営課長補佐 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<市民委員会メンバー> (出席委員、アドバイザー名簿別紙) ※アドバイザーはオンラインでの参加  (敬称略)	
<b>議事内容</b>			
<p>■配布資料          第9回市民委員会次第、資料</p> <p>■議事録</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ(委員長)          「皆様、こんにちは。年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今回は、令和2年度の取組状況の報告ということで、皆様どうぞよろしくお願ひいたします。また、アドバイザーの西尾先生もどうぞよろしくお願ひいたします。」</p> <p>3. 議 事</p> <p>○委員長          「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。」</p> <p>(1) モデル事業の経過報告について          事務局より資料を用いて説明。</p> <p>○委員長          「ただいまの説明内容につきましてご質問、ご意見等がございましたらお願ひ致します。」</p> <p>○委員1          「文化会館施設のような施設のあり方については、地元だけでなく、日光市として広く意見を取り入れてもらいたい。また、コロナ禍になり、何が起きるかわからない時代なので、跡地活用等の方向性については、スピード感を持って具体的な方策を決めていただきたいと思う。」</p> <p>○事務局          「まず、時間がかかったところについては非常に申し訳なく思っている。まず、日光総合会館と藤原総合文化会館の方向性を出すのに非常に時間がかかってしまった。また、途中から並行して日光市としての文化会館施設についてどうしていくかを庁内で検討を始めているが、先ほど事務局より少し話があったESCO事業を民間事業者によって可能かどうか半年かけて調べてもらっていたという経緯もある。今市文化会館は、今市地区の施設ということではなく、日光市全体としてどういう施設であるべきかという視点で検討を重ねているので、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、新しい生活様式も踏まえる必要があることから、もう少し時間がかかってしまうと思うがそこはご容赦願ひたい。そして今後も市全体の問題として考えていくつもりである。」</p> <p>○委員2          「日光総合会館は来月から、藤原総合文化会館は今年の4月から利用休止ということになっているが、施設を使用しなくても電気代等がかかってしまうという話を聞いている。施設を保有している以上、ランニングコストはかかっていると思うので、目安として現状のまみいつまで置いておくのか聞きたい。」</p>			

## 議事内容

## ○事務局

「4月以降は老朽化・未耐震ということ踏まえて、日光総合会館は廃止ということになっている。日光については電気も切ってしまうので電気料はかからない。藤原総合文化会館は、観光案内所があるのでかかってしまう。また、見栄えの問題については、本来なら廃止に伴い早急に解体し、更地にしたうえで、跡地活用について検討するというのが本来の姿かもしれないが、解体するにしても、例えば日光市市役所の旧庁舎を解体するだけでも2億かかっている。それと同等もしくはそれ以上かかってくると思えるので、なかなか財政難のなか、解体だけに費用をかけるのは難しいというところもあり、スケジュールの目途がたっていない。

また、サウンディング市場調査を実施したところ、民間事業者が新規施設を建設するにあたって一緒に解体する可能性についても聞くことができたので、民間事業者の方で解体すれば安価かつよりスピーディーに解体できるのではないかといいところもあるので、今はスケジュールの見通しがたっていない状況ではあるが、コロナの影響も注視しながら解体について慎重に検討していきたい。」

## ○委員長

「藤原文化会館は、電気料等はどうしてもかかってしまうのか。」

## ○事務局

「観光案内所部分は耐震化されていることから継続使用している。引き込みが水道も電気も一本なのでどうしてもかかってしまう。」

## ○委員1

「先ほどの話でわからないので教えていただきたい。民間事業者に解体をお願いすると、地元の民間事業者をお願いして解体してもらうという意味か。」

## ○事務局

「跡地の利活用を公民連携で話を進めていることから、連携した民間事業者に例えば公的施設を含めて新たな施設を作っていただく方向で考えているため、施設を作る民間事業者に施設を壊してもらった方がいいのではないかといい話。」

## ○委員1

「了解した。また、藤原総合文化会館は駅前で観光客が多く集まる場所に立地しているので、やはり今のままの状態は、なんとなく寂しい感じがする。今後の方向性の確定については、急を要すると考える。」

## ○委員長

「他にご質問やご意見等ございませんでしょうか。無いようでしたら、西尾先生にご意見いただきたいと思えます。よろしく申し上げます。」

## ○西尾アドバイザー

「皆様のおっしゃる通りで、コロナの影響でなかなか事業が進まないということは理解しているが、サービス停止してもこのまま置いておくと維持管理費、コストはかかっている。一刻も早く進めるべきだと考える。また、先ほどの公民連携の話で、解体も含めて公民連携できないかということは、早く取り組むために必要なことだと考えている。恐らく、市単独で解体し、更地にすると新規施設を建設となるとスケジュールも費用もかかってしまう。それからもう1点、資料のステップ2のところ、市全体としての文化会館の方向性を検討とあるが、ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえた新しい生活様式での文化会館のあり方について慎重に考えていくべき。これは全国的にも新たな課題となっており、コロナ以降の文化会館のあり方が確立していないことが多い。これは慎重に検討していく必要があり、今は庁内での検討としているが、ご指摘もあったようにもっと市民を巻き込んで、市民と対話しながら進めていき、コロナを踏まえて抜本的に検討していくという方がよりよい結果に結びつくのではないかと思います。」

## 議事内容

## ○委員長

「ご質問、ご意見等がないようですので、モデル事業の経過報告については以上といたします。」

## ○委員長

「では、次に個別施設等の経過報告につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。」

(2) 個別施設等の経過報告について  
事務局より資料を用いて説明。

## ○委員長

「事務局からの説明が終わりましたので、只今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。」

## ○副委員長

「集会所関係について質問がある。まだまだ特に栗山地区と足尾地区には集会所が沢山あると思うが、無償譲渡をするにあたりネックになっていることがあれば教えて欲しい。自治会が引き受けられないという集会所があるのはどうしてなのか、問題点を聞きたい。」

## ○事務局

「メインは地域振興部が進めている内容で聞いた話になってしまうが、いずれの自治会も規模が小さくなりすぎていて、集会所を譲りうけても維持できないという問題が非常に大きいところ。また、集会所を4つ持っている自治会等もあることから、慎重な調整が必要になっている。引き続き、地域振興部の方で協議・検討を進めていく。」

## ○副委員長

「了解した。集会所も維持費がかかっていると思うので、引き続き協議を進めていって欲しい。」

## ○委員長

「質問が3点あるので教えて欲しい。1つ目は旧春日町庁舎の利活用について、利活用といっても随分古い建物のように思える。実際、利活用を果たしてできるのかが疑問。2つ目は、野口っ子クラブも借地に建っているとのことだが、具体的にどのような利活用を考えているのか。3つ目は、小来川地域公共施設再編についてだが、学校の方向性が確定しないとのことだが、以前統合についての方針が出ていた気がするが、これは小来川小中学校に当てはまらないのか、具体的に進んでいることがあれば教えて欲しい。」

## ○事務局

「1点目については、事務局としても建屋が相当古いため、そのまま使える状況ではないと考えている。社会福祉協議会が出た後、市としては更地にして利活用の検討を図る予定でいたが、現在は、新型コロナウイルスワクチン接種の関係でワクチンを保管する冷凍庫が設置され、市のワクチン担当の部署も入っていることから、ワクチンの方が落ち着いたらまた改めて利活用を図る方向でいる。」

2点目の野口っ子クラブについては、この後説明するが、民間提案制度で旧野口小を活用したいという事業を採択したことから、建屋は違うが、旧野口小の同じ敷地に建っていることから、借地ではあるが、今後連携した使い方ができるのではないかとというところで利活用対象財産としている。

3点目の小来川地域公共施設再編について、小来川小中学校については、教育委員会では【存続】という位置づけになっている。ただ、子どもの数が相当数減少しているため、その方針を見直す時期が来るだろうという認識でいる。ただ、その見直しまでに期間を要するため、それを待っているよりも例えば、学校に入れられる機能を入れてみるとかできるところから検討をしている状況。」

## 議事内容

## ○委員 1

「小来川地域は現在何世帯あるのか。」

## ○事務局

「約300世帯。」

## ○委員 1

「世帯数の割には、公共施設が多い気がする。公共施設にはランニングコストがかかるのだから、その意識のもと、ある程度行政がリーダーシップを強力にとって進めるべきである。財政が逼迫しているのだから、ある程度スピード感をもって取り組んでいって欲しい。このままだと赤字は募る一方だと思う。」

## ○委員長

「他にご質問やご意見等ございませんでしょうか。無いようでしたら、西尾先生にご意見いただきたいと思えます。よろしくをお願いします。」

## ○西尾アドバイザー

「令和2年度の実績をみると、色々な取組みが実現していることは評価できる。他の自治体では、計画は作ったものの実行に移せていない自治体も多いので、これだけの施設を複合化や廃止をしている点はとても進んでいると思う。このような取組みによってどういった成果があったのかということは取りまとめておく必要があると思う。いくつか施設を減らしたよということだけではなくて、その結果このようなサービスに繋がったよ、これまでの課題がどのように解決でき、最終的にどのような効果があったのかまでを展開し、計画に反映していくことが必要だと考える。」

小来川の専門部会には、私もアドバイザーとして参加しているが、地元の学校の方向性が確定していないということで、できるところからやっていくということだったが、どちらのパターンでも学校が核となっているので、まずはできるところから学校に集約する方向で進めて、後々学校の方向性が変わったらまたその時に改めて考え直すという進め方で良いと思う。委員の方からも意見があったが、スピーディーに進めていって欲しい。」

## ○委員長

「ご質問、ご意見等がないようですので、個別施設等の経過報告については以上といたします。」

## ○委員長

「では、次に未利用財産の利活用につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。」

## (3) 未利用財産の利活用について

事務局より資料を用いて説明。

## ○委員長

「事務局からの説明が終わりましたので、只今の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。」

## ○委員 3

「日光駅前駐車場については利用形態がガラッと変わってしまうのか。」

## ○事務局

「運営形態が民間事業者に代わるということのみで、従前から機械式だったため、特に駐車場機能についてはガラッと変わることはない。」

## 議事内容

## ○副委員長

「今後、郷土センターと併せて周辺の駐車場も一体的に管理するということが、日光地区は、民間の駐車場が増えているが、あくまでも個人的な意見になるが、例えば日光地区の特に駅近等の一等地にある公共施設については、あり方を見直し、廃止する等して、廃止した施設の土地を民間事業者を活用してもらって駐車場として活用してもらおう等も考えられるのではないかと。そういった考え方も1つもってもらえると幸いである。」

## ○委員長

「日光郷土センターがリニューアルするということが、中に入っていた観光協会はどうなってしまうのか。」

## ○事務局

「観光協会は変わらずにそのまま残る。ただ、施設のリニューアルに伴って、観光協会の施設内での位置が変わるかもしれない。観光案内業務は、指定管理者と連携して今後もやっていくというイメージ。」

## ○委員長

「資料に旧日光ユースホステルの公売と旧御幸町分庁舎のプロポーザルでの売却とあるが、その後どうなっているのか知りたい。」

## ○事務局

「旧日光ユースホステルの公売については、東京の民間事業者売却。その民間事業者は、この建物が文化勲章をとった方の設計した建築物ということで非常に価値があるため、後世に残していきたいという思いもあり、うまく活用した形で使っていきたいとのことだったが、売却のあと、コロナの影響があり、なかなか進んでいない状況。ただ、地元の自治会へ足を運ぶ等、少しずつは動いている様子が見られる。今後、コロナの状況も状況を踏まえて少しずつ進んでいるというところで情報を頂いている。」

旧御幸町分庁舎については、プロポーザルで地元への賑わいづくりということで公募し、落札手続き後にこちらもコロナの影響もあり、足踏みしている状況であった。最近では少し落ち着いたということで、令和3年度中には何かしらお披露目できればというところで話を伺っている。」

## ○副委員長

「日光小学校に所野小学校と野口小学校が統合されて今年初めて卒業生が出るが、その統合を受けて良かったよとか悪かったよとか児童や保護者等から意見があったかどうか、もし情報があるとしたら聞きたい。」

## ○事務局

「事務局としては、教育委員会の管轄ということもあり、その情報は掴んでいない。ただ、施設の話では、先ほどあった野口っ子クラブ廃止の話のように、日光小学校に学校は統合されるが、地元で学童は残して欲しいという意見があったことから残したが、いざ子供たちが日光小学校に通い始めたら学童も一緒の方がいいよねという話があり、今回廃止に至った。子供たちも規模が大きくなり、今まで違う学校だった子供同士で過ごすことになったが、うまく融合し学校生活を過ごすことができているので、だったら日光小学校にという流れになったのだと思う。」

## ○委員4

「日光小学校の現場の声をよく聞くことがあるが、困ったという声は聞いたことがない。ただ、最初は子供達も職員も初めてのことなので先が見えず不安なこともあり、大変な部分もあったようだが、やはり大人よりも子供たちの順応性は早く、子供たち同士うまく過ごすことができているからこそ学童も一緒という話に繋がったのだと思う。それなので、本当に困ったことがあったとか、統合しない方が良かったとかそういう話は聞いたことがない。」

## 議事内容

## ○副委員長

「日光小学校への統合のように、今後も統廃合する学校もあると思うので、その際は子供たち、保護者、現場の声をよく聴いていただいて、進めていって欲しいと思う。」

## ○委員長

「他にご質問やご意見等ございませんでしょうか。無いようでしたら、西尾先生にご意見いただきたいと思えます。よろしく申し上げます。」

## ○西尾アドバイザー

「今回、民間提案制度の随契保証型ということで、この取組みは全国的にも珍しく、採用されれば随意契約できるというところが民間事業者にとっても非常にメリットが多く、とても注目されている制度である。たった1年間で、事業化が決まったわけではないものの、採用案件が6件ということで、それだけ日光市は民間事業者から見たときに色々な事業の可能性をもっていて、魅力的であることがわかった。その評判が広がっていくと、非常に民間事業者からよりよい提案を貰えるという波及効果があると思うので、恐らく、指定管理者が令和3年度から変わって施設がよりよくリニューアルされるのもその影響が少なからずあると思っている。

例えば文化会館で、今後検討していく中でサウンディングの実施も考えるとなると、日光市は民間提案制度があり、アイデアを提案しやすいよという話が広がれば、よりよい意見が民間事業者から出てくるかもしれない。今後もうまく活用して行って欲しい。」

## ○委員長

「以上で、本日用意された議題につきましては、終了とさせていただきます。進行につきましては事務局にお返しいたします。」

## ○事務局

「ありがとうございました。次第のその他の事項について、1件ご案内させていただきます。」

## 4. その他

- ・事務局より次の開催時期について事務連絡。

## ○事務局

「では、以上を持ちまして第9回公共施設適正化推進市民委員会を終了させていただきます。」

以上